

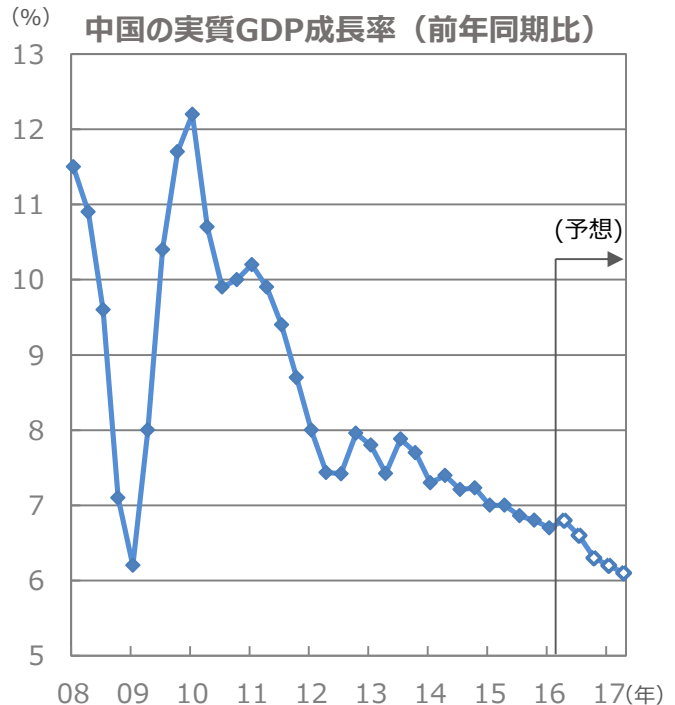
## 今日のトピック 中国の実質GDP成長率（2016年1-3月期） 予想通りの6.7%成長で市場への影響は限定的

### ポイント1 予想通りの6.7%成長 株式市場の反応は限定的

- 2016年1-3月期の実質GDP成長率は前年同期比+6.7%と、2009年1-3月期以来、7年ぶりの低水準となりました。
- 一方、15日の上海総合株価指数の反応は限定的でした。3日ぶりに前日比▲0.14%と小反落して終了しましたが、前日に約3カ月ぶりの高値をつけていただけに、利益確定売りに押された形です。実質GDP成長率は市場予想（Bloomberg集計）通りの結果であったことから、大きな波乱要因とはなりませんでした。

### ポイント2 16年前半の景況感是好調 16年4-6月期は6.8%成長へ

- 中国の景況感は、16年3月以降、①製造業PMI（購買担当者指数）の50ポイント超え、②外貨準備高の増加傾向、③生産者物価の前月比プラス転換、などから、明るさを増しています。住宅価格の上昇も続いており、景況感の改善は16年4-6月期まで続きそうです。16年4-6月期の実質GDP成長率は前年同期比+6.8%の見通しです。



(注) データ期間は2008年1-3月期～2017年4-6月期。  
2016年4-6月期以降は三井住友アセットマネジメント予想。  
(出所) CEICのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### 今後の展開 年後半以降は緩やかな減速に。市場は構造改革の進展に期待

- 住宅価格の上昇を受け、地方政府の土地譲渡収入が増加している模様です。16年1-3月期の土地譲渡収入は前年同期比+5.7%ですが、3月単月では前年同月比+16.9%と急激な伸びとなっています。住宅市場の好調さが全国に広がる可能性があり、中国経済は4-6月期までは好調を維持しそうです。
- 年後半は緩やかな減速が予想されます。①けん引役である住宅市場の鎮静化、②豚肉価格の上昇から期待インフレ率が上昇し消費を抑制、などが背景です。中国政府としては、減速を緩やかなものに留めつつ、成長目標の達成と構造改革の推進が重要課題です。市場も引き続き、国営企業の改革など構造改革の進展に期待を寄せています。

### ここもチェック! 2016年4月14日 IMFの世界経済見通し（2016年4月）下方修正の相場への影響は限定的 2016年3月23日 最近の指標から見る中国経済（2016年3月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。